

第 31 回 愛媛形成外科研修会
抄 録 集

日 時 平成 25 年 6 月 22 日 (土) 17 時 30 分～
場 所 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
新棟 3 階 研修室
松山市南梅本町甲 160 TEL : 089-999-1111

当番世話人 HITO病院
形成外科 田中 伸二

第 31 回 愛媛形成外科研修会

研 修 会

1. 受付は当日 17 時 00 分より会場で行います。
※お車でお越しの方は、誠に申し訳ございませんが一律 100 円の駐車料金がかかります。
2. 参加費は 2,000 円を申し受けます。
3. 演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. 討論時間は、一題あたり 3 分～5 分を予定しております。
5. 発表形式は Windows Power Point 2007 による PC プレゼンテーションをお願いいたします。（当日は USB メモリーあるいは PC 本体を持参して下さい。）
6. 今回はシンセス社から AO についての説明が 17:30 より 10 分程度あります。
7. 松山市医師会の会報で、写真で形成外科の紹介をするように要請を受けています。今回の研修会で、創立以来初めて研修会員の集合写真を撮り、掲載したいと考えています。可能な限りご参集ください。

連絡先

〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 788 番地 1

HITO 病院 田中 伸二

E-mail: tanaka.shinji@hito-medical.jp

TEL: 0896-58-2222

会歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第1回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成10年7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成10年12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成11年6月19日	20名
第4回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年12月9日	20名
第7回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年6月18日	31名
第16回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成17年12月10日	35名
第17回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成18年6月24日	31名
第18回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成18年12月9日	26名
第19回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年6月16日	37名
第20回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年12月15日	30名
第21回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成20年6月14日	30名
第22回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成20年12月6日	30名
第23回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年6月27日	32名
第24回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年12月12日	28名
第25回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成22年6月19日	34名

第26回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成22年12月11日	30名
第27回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年6月18日	31名
第28回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成23年11月26日	25名
第29回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4階 未広	平成24年6月23日	34名
第30回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成24年12月1日	26名
第31回	田中 伸二 (HITO病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟3階研修室	平成25年6月22日	名

独立行政法人 国立病院機構

四国がんセンター

愛媛県松山市南梅本町甲 160

(TEL:089-999-1111)

最寄り駅: 伊予鉄横河原線 梅本駅下車 徒歩 5分
伊予鉄横河原線 牛湊団地前駅下車 徒歩 6分



プ ロ グ ラ ム

Section I (17:45~18:35)

座長:こいずみ形成外科皮ふ科 古泉 佳男 先生

1. 脂肪肉腫が疑われた1例

松山赤十字病院 形成外科 岡部 寛 他

2. ダニ麻痺症の一例

愛媛労災病院 形成外科 木暮 倫久 他

3. 熱傷に対して局所陰圧閉鎖療法が有効であった一例

住友別子病院 形成外科 北口 陽平 他

4. 切除が困難な顔面有棘細胞癌の治療経験

四国がんセンター 形成外科 時吉 貴宏 他

5. 当院のガングリオン治療成績について

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 宝道 麻由 他

Section II (18:35~19:25)

座長:愛媛県立中央病院 形成外科 西 建剛 先生

6. 複雑に留置されたペースメーカーリード感染の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 森 秀樹 他

7. 口蓋鼻瘻孔閉鎖術後に嚥下障害を生じた1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 戸澤 麻美 他

8. 右膝窩動脈損傷後コンパートメント症候群を発症した1例

愛媛県立中央病院 形成外科 尾崎 絵美 他

9. 遊離空腸再建におけるモニターフラップの工夫

四国がんセンター 形成外科 藤田 悟志 他

10. 救肢しえた広範な下肢デグロービング損傷の1例

愛媛県立中央病院 形成外科科 西 建剛 他

Section I (17:45~18:35)

座長:こいずみ形成外科皮ふ科 古泉 佳男 先生

1. 脂肪肉腫が疑われた1例

松山赤十字病院 形成外科

○岡部 寛、庄野 佳孝

症例は75歳女性。2ヶ月前に左背部の皮下腫瘍を自覚し、急速に増大傾向にあるため当科初診した。脂肪肉腫を疑い、MRI、PET-CT、病理検査を施行したところ、肺・骨転移を伴う浸潤性乳管癌を認めた。病理学的な確定診断に至っておらず現在結果を待っている。臨床経過と若干の考察を加えて報告する。

2. ダニ麻痺症の一例

愛媛労災病院 形成外科

○木暮 倫久、黒住 望

症例は63歳女性 オーストラリア旅行中に頸部に黒色の隆起を認めた。帰国後、黒色の隆起周囲のしびれが出現し来院。黒色の隆起を鑷子でつまみだしたところマダニを認め摘出したがしびれは頸部から耳垂に広がり、また四肢の違和感も出現したためライム病の可能性もあると考え抗生剤投与を行った。ライム病では、呼吸筋麻痺で死亡する例もあるためマダニ咬創では留意する必要がある。

3. 熱傷に対して局所陰圧閉鎖療法が有効であった一例

住友別子病院 形成外科

○北口 陽平、安井 史明、渡邊 敏之

52 歳男性。練炭の上で意識消失し熱傷を負い、受傷より 4 日目に当院受診された。左下肢から臀部にかけて 10%の3度熱傷と重度の腎不全を認め、ICU 入室し CHDF を開始した。受傷後 5 日目にデブリドマン施行し、6 日目より VAC 療法を開始した。キャニスターへの浸出液の量を測ることで水分出納量を計測し全身管理を行った。受傷後 18 日目に皮膚移植術、腓腹筋皮弁術施行した。その後は VAC 療法継続し経過良好で術後 46 日目に退院した。

4. 切除が困難な顔面有棘細胞癌の治療経験

四国がんセンター 形成外科

○時吉 貴宏、河村 進、藤田 悟志

有棘細胞癌治療の第一選択は切除である。しかし大きさや転移といった腫瘍側の問題、高齢や認知症といった患者側の問題から手術が困難な場合がある。そのような患者 2 例に対して放射線及び化学療法による治療を行った。症例を供覧し、報告する。

5. 当院のガングリオン治療成績について

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○宝道 麻由、中岡 啓喜、森 秀樹、戸澤 麻美

ガングリオンの根治的治療の第一選択は外科的摘出であるが、再発率が高いことが知られている。当院にて 2003 年 1 月～2012 年 12 月の 10 年間に外科的治療を行ったガングリオンのうち、手に発生したもの 41 例(男性 17 例、女性 24 例、平均年齢 57 歳)について調査した。年齢、性別、術前の処置の有無、手術方法、術後の再発率などについて検討し、文献的考察を加えて報告する。

Section II (18:35~19:25)

座長: 愛媛県立中央病院 形成外科 西 建剛 先生

6. 複雑に留置されたペースメーカーリード感染の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○森 秀樹、戸澤 麻美、宝道 麻由、中岡 啓喜

32歳男性。ファロー四徴症のため幼少児よりペースメーカー留置を含む複数回の手術を受けた。1週間前からの発熱と左胸部の皮下膿瘍のため循環器内科より当科紹介された。CTにて左第5肋軟骨を固定するワイヤーの周囲に膿瘍を認めたため同日切開排膿行い、3週間後にデブリードマンを行った。しかしその後も排膿が続き、周囲に残存しているペースメーカーのリード感染と診断したが、感染が治まるまで複数回の手術を要したので報告する。

7. 口蓋鼻瘻孔閉鎖術後に嚥下障害を生じた1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○戸澤 麻美、中岡 啓喜、森 秀樹、宝道 麻由

67歳、男性。3年前に歯科にて左上顎癌に対し腫瘍切除、両頸部廓清術、放射線治療60Gy施行し、口蓋鼻瘻孔の閉鎖目的に紹介された。左舌下神経麻痺による左舌の委縮と左頬粘膜の拘縮が強い。ため局所皮弁は選択せず、遊離前腕皮弁による再建を行った。術後嚥下困難を生じ、軟口蓋に張り出した皮弁の重みによる鼻咽腔閉鎖不全と、舌下神経麻痺による送り込み困難が合併したためと考えた。

2か月後に皮弁縮小術を行い、嚥下可能となった。

8. 右膝窩動脈損傷後コンパートメント症候群を発症した1例

愛媛県立中央病院 形成外科

○尾崎 絵美、小林 一夫、中川 浩志、徳永 和代、西 建剛

11歳男児、ガラスを蹴り右膝窩に切創を受傷、出血性ショックで当院に搬送された。右膝窩動脈損傷にて心臓血管外科がバイパス術を施行後、CK上昇を認めコンパートメント症候群と診断。減張切開と植皮術を施行したが、右腓骨神経麻痺と脛骨神経不全麻痺を認めた。植皮生着後、リハビリを開始し、スポーツ可能な程度まで回復している。症例の経過を若干の考察を加えて報告する。

9. 遊離空腸再建におけるモニターフラップの工夫

四国がんセンター 形成外科

○藤田 悟志、河村 進、時吉 貴宏

抄録: 咽喉食摘術後の再建方法については、微小血管吻合の手術手技の安定性だけでなく術後機能の点からも遊離空腸再建が標準的な治療となっている。術後合併症の重篤なものの一つに、血流障害による移植空腸壊死がある。術後の血流評価として、モニター腸管、経皮ドップラーエコー、内視鏡、エアートノメリー法によるPiCO₂測定などの方法が行われている。当院では従来、血流評価を行うためにモニター腸管を創外に作成する方法を行っていたが、浸出液による頻回な処置や、モニター腸管の評価困難を認めていた。最近、モニター腸間膜を作成し血流を評価する方法に変更したため、その方法について報告する。

10. 救肢しえた広範な下肢デグロービング損傷の1例

愛媛県立中央病院 形成外科

○西 建剛、小林 一夫、中川 浩志、徳永 和代、尾崎 絵美

60歳女性。労災事故にて大腿近位1/3から足部までの挫滅の著しいデグロービング損傷を認め、大腿部よりの切断を計画していた整形外科医より救肢の可能性につきコンサルトがあった。粉碎骨折した足底をサイム足関節離断したが、内側足底動脈と大伏在静脈を再建して足底の皮膚軟部組織を皮弁として利用し、足関節部を被覆した。術後、広範な大腿、下腿皮膚壊死を認めたが、VAC療法とメッシュ植皮で被覆し、8か月を経過した現在、装具を着用し杖歩行可能である。

愛媛形成外科研修会 総会(19:25～)

1. 次回研修会の日程
2. その他